

＜先週の説教から＞

『ルカ 65 — ともし火をともしして』

武田真治牧師

詩編 18:26~35 ルカ福音書 8:16~21

今日の箇所は「ともし火のたとえ」という題がついていますように、イエス様が話された“たとえ話”の一つです。ただし、たとえ話そのものはとても短く16節だけです。即ち「ともし火をともし、それを器で覆い隠したり、寝台の下に置いたりする人はいない。入って来る人に光が見えるように、燭台の上に置く」です。ここでの「ともし火」はローソクというよりは、手で持って持ち運びできるようなランプを考えて頂いて良いと思います。「燭台に置いて」とありますように、家の中にある机の上や壁の上部に据えられた安全な置き場に、持ってきたランプを置いて“部屋全体を照らす”のです。私たちであれば、部屋入ってすぐに電灯のスイッチを入れるということでしょう。そのランプや電灯のある場所は部屋の上部にあるのが当たり前で、わざわざベッドの下やに置かないと言われています。

このような場面はまさに日常生活の一コマを取り上げたものであり、今の私たちにも納得できる、実際によくする行動でしょう。ただ、じゃあ『だから何なの?』と思うのが正直な反応だとも言えます。実際、この後に、このたとえ話を通して何を伝えたいのか、そのイエス様の思い＝メッセージが続かないと分かりません。それが17節の「秘められたもので、人に知られず、公にならないものはない」です。

実は、この17節だけを頼りに読まれて来た解釈は、このともし光とは“人が内に持っている才能や能力”であり、それはいつか表に現れて、人々の役に立つことになるというものです。それも間違いではないでしょう。ただ、この「ともし火」について、この後に更にイエス様が「だから、どう聞くべきか注意しなさい」と続けておられることを考慮しますと、この「ともし火」とは“御言葉”と言い得るのです(直前の『種まきのたとえ』で、イエス様が蒔いてくださった「御言葉」のことに)。従って、このたとえ話は、ひとり一人に

与えられた“御言葉”は「秘められている」ままにならないで「人に知られ、公に(人々の目や耳に触れるように)」導かれると。み言葉自体がそのような力を持っていると!

私はこのたとえ話の中に「入って来る人に光が見えるように」と、わざわざイエス様が付け加えておられる点が大事だと思います。この「ともし火＝御言葉」は“中に入ろうとする人”のためでもあると。その方々が部屋にすんなりと入れるようにする「光」で、自分の道も照らしてくれると同時に、そういう役目も果たすと。今年も私たちは色々な“御言葉”を与えられることでしょう(＝御言葉体験)。それは自分の信仰のため、生き抜いて行くためのものでしょう。しかし、そのまま自分だけのものと隠して置くものではなく、人々に知られて行くものなのだと。特に、後から「中に入ってくる人」のためには大事な「光」となるものでもあります!

\*\*\*\*\*

【今週の集会】

\*聖書研究・祈祷会 I. 1月21日(水) 20:00  
II. 1月22日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記

祈祷主題: 生花奉仕を覚えて

担当者: (水) TN (木) OK

祈りに覚える人: OYさん OYさん

\*ハンナの会 1月20日(火) 10:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男20 女53 計73  
祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男1 女5 計6  
日曜学校 幼稚科5 小中科6 計11

【次週礼拝】

1月25日(日)  
聖書: 詩編 57:1~12  
マルコによる福音書 1:35~39  
説教: 「詩編57一晩(あかつき)を呼び覚まそう」  
武田真治牧師

讃美歌: 51(1)、32、402、516、211、  
88(1)

【次週当番表】

司式: IK 長老 奏楽: NY 礼拝: KY 長老  
献金: IY IY 受付: KH ST  
会堂準備: OK KH KA TN  
NE

看板: NY 週報: KY お花: IY

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校 ・聖書輪読会 ・求道者会  
礼拝後: ・牧師と語る会 ・お茶の会 ・聖歌隊練習  
・牧会/礼拝/伝道/社会教育 各委員会  
・予算委員会

67 - 3

# 週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2026年 1月 18日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549